

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	門利 知美	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(健康科学)	
学位授与番号	甲第124号	
学位授与日付	平成26年3月14日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	ハーディネスとストレスおよびスポーツ活動との関連	
審査委員	教授 松枝 秀二	教授 中坊 幸弘
	教授 宮川 健	准教授 田島 誠

博士論文内容の要旨

ストレスを受けた際の反応の違いは個人要因が関係していると考えられている。個人的要因を考える際の性格特性を表すものとして今回研究に用いたハーディネスがある。ハーディネスの研究では、3要素別や質問紙以外の方法や、スポーツとの関係を検討した研究は見当たらない。そこでハーディネスに関する研究を1から5に分けて行った。研究1では、ハーディネスの3要素とストレスに対するとらえ方に関連があることがわかり、研究2は定期試験をストレスャーにして検討したが顕著な違いは見られなかった。研究3では、生理学的指標等を使って検討した。その結果、ハーディネスの要素と生理的反應の出方に関連がある可能性が示唆された。研究4では運動を行う目的の違いによる要素との関連性が示唆された。研究5では、スポーツ現場で、ハーディネスタイプ別サポートが有用か否かを検討した。その結果、スポーツ現場での有用性が示された。

博士論文審査結果の要旨

プレゼンテーションは論旨も明快でよく整理されていた。委員の質問にも明確に答えることができていた。ハーディネスとストレスとスポーツの相互関係を博士論文の課題として選んだが、論文も全体的にはよく書かれたものであった。委員の先生方からは、それぞれの研究結果の後にまとめをいれてはどうか、ハーディネスとスポーツ活動との関連をもっと強調した論調での記述でよい、総合討論の部分と背景の部分とが相違ないようにとの指摘がされた。ある委員の方からは、総合点で80点以上を与えられるとの評価をいただいた。このような結果をスポーツの現場へ導入することができれば、新しいアスリートトレーニング法として発展する可能性のある論文であると評価した。